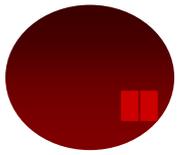


## 7 野村総合研究所跡地利用



### 目標

野村総合研究所跡地は、小高い丘で、南に海を、西に富士山を望む、風光に恵まれた緑豊かな土地です。この跡地を市が誇れる文化・教養ゾーンとして活用していきます。



### 計画の概要

- 当該地が持つ、緑豊かな環境や落ち着いた佇まいを活かしながら、持続的発展が可能な社会をめざすために、今ある緑は残しつつ自然との共生を図り、既存の建物の再生活用を基本とします。
- 敷地全体の計画段階から市民参画を図り、さらに、維持管理や運営についても市民や関係団体、民間企業の多様な参画を得ることにより、市民の文化活動交流拠点として、また、古都鎌倉の文化情報発信拠点として、発展・継承していくことをめざします。
- 自然的土地利用は、『多様な自然的体験を通じて「学ぶ空間」として活用する』というコンセプトのもと、緑地の維持管理を学んだり、子どもたちが自然から冒険心や自然への理解力などを学ぶ場として活用していきます。
- 都市的土地利用のうち、公共的機能は、「自然」「歴史」「美術」の複合博物館・市民活動交流館とし、展示や調査研究機能、収蔵機能を持つとともに、市民活動交流の拠点機能などを備えたものとします。
- 都市的土地利用のうち、民間機能は、民間事業者などからの提案を受けながら決定していきます。導入をめざす機能としては、文化・教養ゾーンにふさわしいもの、市民サービスの向上につながるもの、市の財政に貢献するものなどを想定しています。
- 事業の実施に向けては、複合博物館・市民活動交流館の整備・運営・維持管理に民間の資金や知恵を積極的に活用できる方法を導入していきます。

